

大分県国東地区 水基調査 ヒジキ増殖場整備工事 セル1000-CR型 効果調査報告書

調査場所: 大分県国東市住吉崎地先

調査期日: 令和2年6月6日

経過年数: 約3年3ヶ月

設置水深: 約1~2m

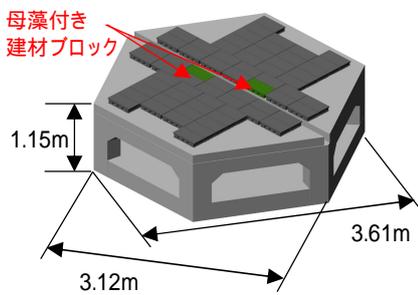
1. 調査場所



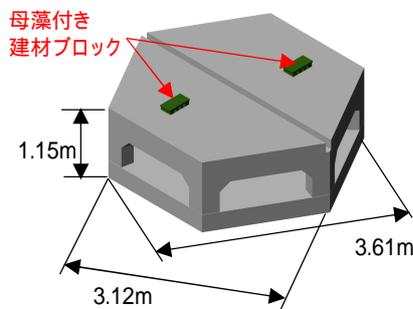
2. 調査対象礁の概要

ヒジキ礁 セル1000-CR型

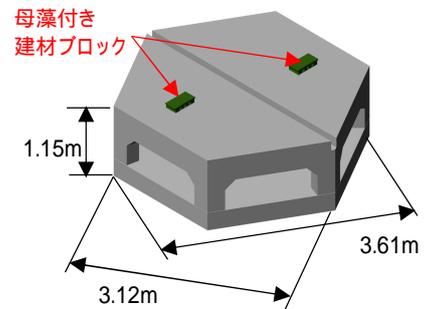
A) 建材ブロックタイプ



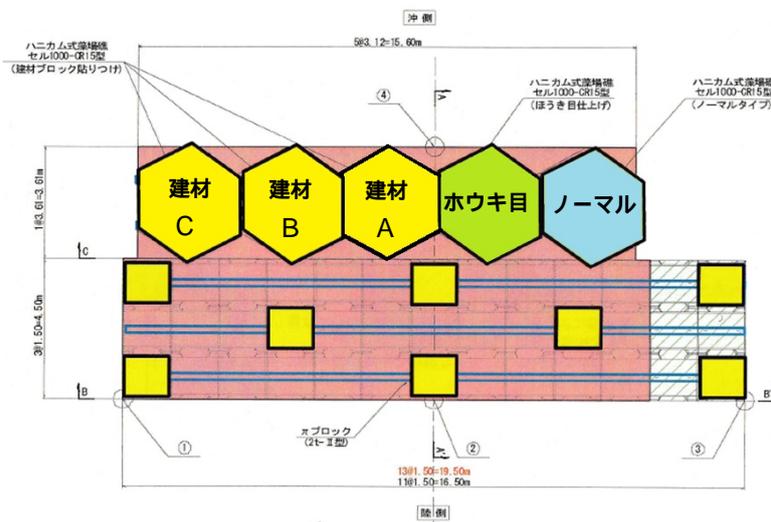
B) ホウキ目タイプ



C) ノーマルタイプ



3. 配置図



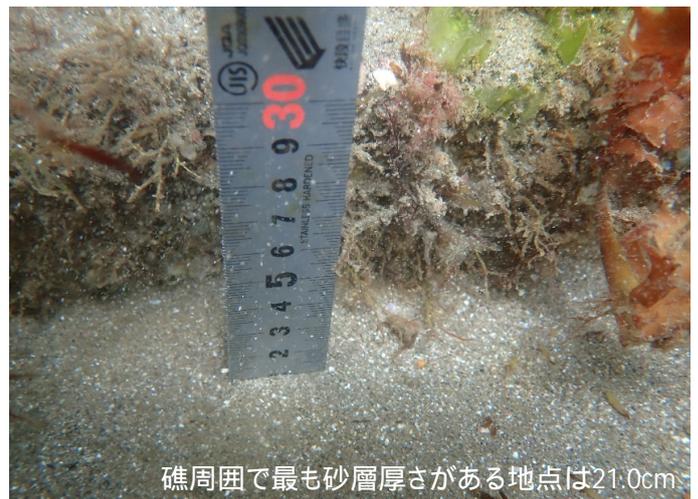
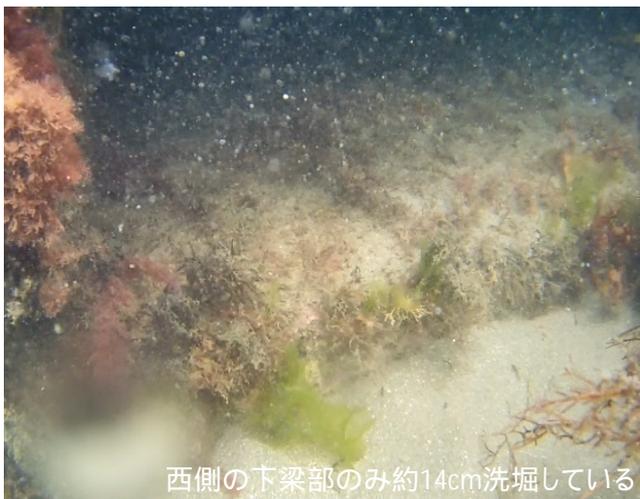
4. 潜水調査による設置状況

各礁は設置及び海況変化による破損・転倒等は見られず、安定した状態で設置されていた。



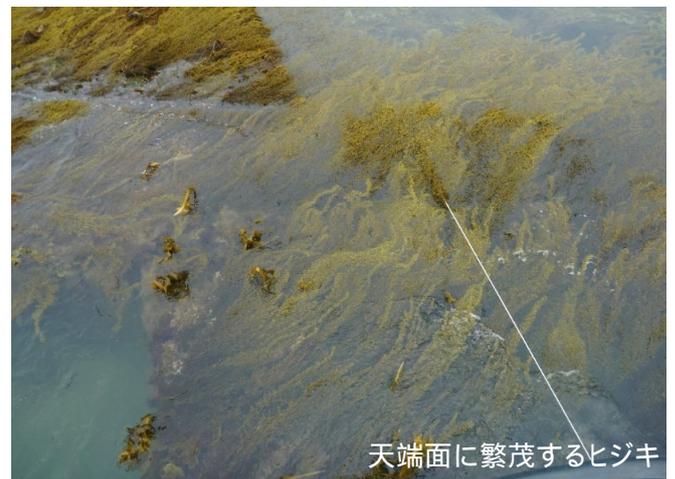
5. 潜水調査による洗堀状況

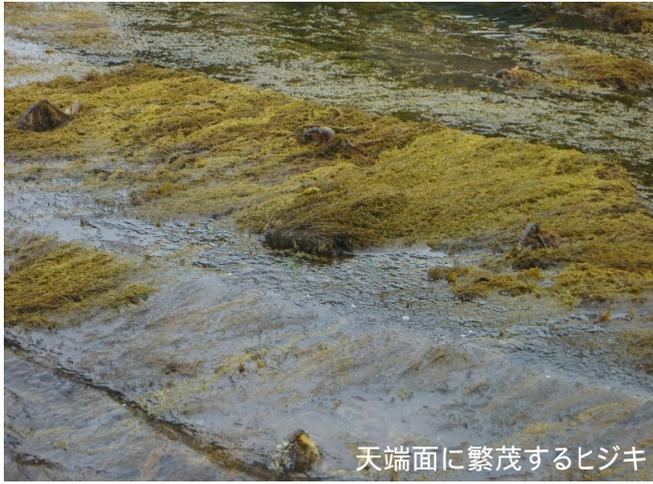
礁周囲の砂層厚さは2.5～21.0cmであった。最も西に設置されている建材ブロックタイプCの西側のみ約14cmの洗堀が見られた。



6. 調査による海藻の着生状況

天端面に着生するヒジキの被度は5基とも95%以上であった。礁側面にはカジメ類やアオサ、カギケリ等の多様な海藻の着生が確認された。

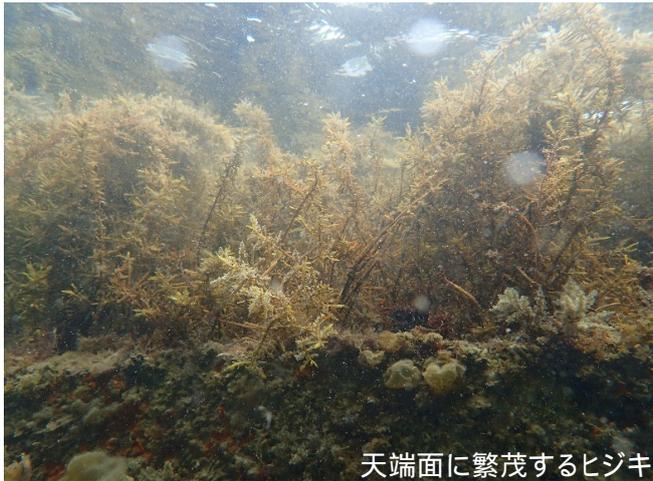




天端面に繁茂するヒジキ



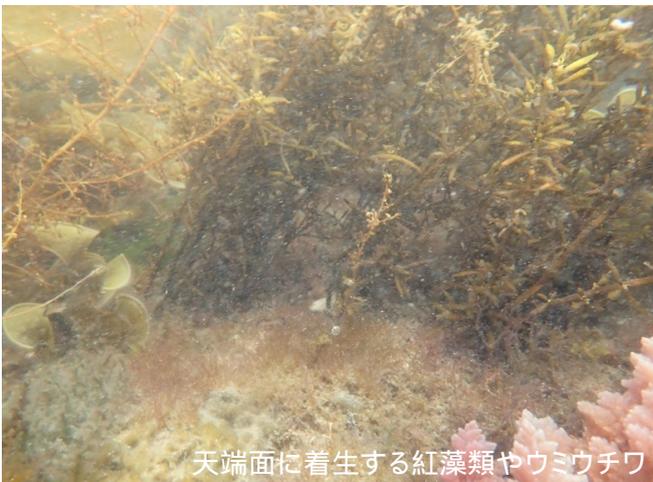
天端面に繁茂するヒジキ



天端面に繁茂するヒジキ



天端面の建材ブロックに固着するヒジキ



天端面に着生する紅藻類やウミウチウ



礁側面に着生するアオサやカギゲリ



礁側面に着生するカジメ類



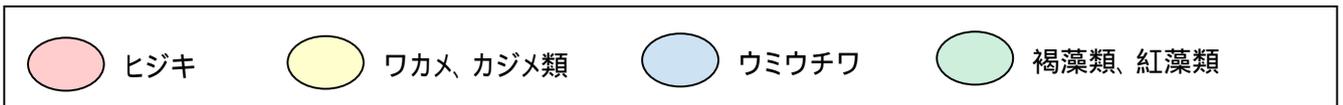
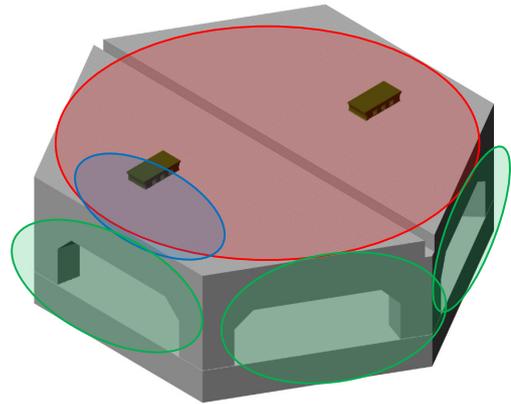
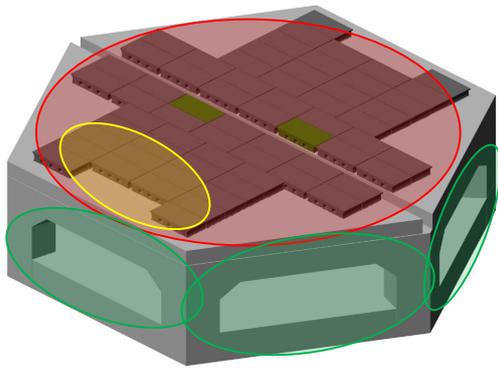
礁側面に着生するカジメ類

7. 潜水調査による魚類の集積状況

礁周辺や内部には滞遊するメバルやベラ類、ウミタナゴ等が確認された。



海藻の着生状況図



魚類の集積状況図

